

投稿規定

と

投稿の手引き

国際文理学部・大学院人間環境科学研究科 紀要『人と環境』投稿規定

1981年11月17日制定
1995年1月17日改定
2003年1月14日改定
2008年7月1日改定
2011年7月5日改定
2016年9月9日改定

1. 本誌への投稿は本学国際文理学部教員および人間環境科学研究科教員またはその共著者に限る。
2. 本誌の発行は年1回で、年1巻とする。
3. 投稿論文は他誌に未掲載の研究論文とする。
4. 原稿は和文、英文共に、A4版、縦長、横書きとし、ワードプロセッサで作成し、ファイルとプリントアウトした原稿を紀要委員に提出する。
5. 図表を含めて刷上がり12頁以内とし（図および表の数は合わせて15枚以内とする。）規定を超過する場合は、超過分を個人負担とすることがある。また色刷りその他特殊印刷を要する場合も、その経費を個人負担とすることがある。
6. 原稿は提出された時点では完成された論文でなければならない。提出以後の内容の訂正、差替えなどは認められない。
7. 原稿の頭には表題、氏名を記し、和文の場合はあわせて欧文訳をつける。また和文の場合は、欧文の要約をつけることを原則とする。
8. 図、写真は原稿内にその挿入箇所のみを明示する。図は鮮明に描かれたものを提出するか、あるいはパソコンソフトで作成した場合はファイルとプリントアウトした図を紀要委員に提出する。
9. 投稿規程に著しく外れていると認められた原稿は修正を求める事がある。
10. 掲載は受理年月日順によるものとするが、編集上の制約もあるため、紀要委員が最終的に決定する。同一著者が一度に2編以上投稿する場合、第2編以下は次号に回されることがある。
11. 校正は著者によるものは、初校、再校までとし、3校以降は紀要委員の責任で行う。
12. 別刷りは50部とし、それ以上希望する場合は、あらかじめ、紀要委員に申し出ること、50部以上の別刷りの代金は、個人負担である。
13. 著作権の所在
採用原稿については、著作権のうち、複製権および公衆送信権を公立大学法人福岡女子大学に譲渡することとする。また、福岡女子大学は、両権の行使を学術情報センターへ委託することとする。ただし、執筆者本人による掲載原稿の複製および公衆送信は、福岡女子大学の許可を必要としない。

国際文理学部・大学院人間環境科学研究科 紀要『人と環境』投稿の手引き

1982年7月21日制定
1995年1月17日改定
2008年7月1日改定
2011年7月5日改定
2016年9月9日改定

本紀要の形式を整えるため、投稿者は投稿規定（本則）と同時に、この手引きを熟読し、また最近の本紀要を参考にして、規定に従って投稿すること。

1. 論文全体の構成
論文全体の構成は、表題 Title、著者氏名 Author names、所属名 Author affiliation、本文 Main text、要約 Summary、謝辞 Acknowledgements、文献 References の順とする。和

文の場合は、本文の前に欧文の表題およびローマ字の氏名、また和文の要約のあとに欧文の要約を記入する。

2. 本文の構成

各分野によってその形式が異なるので、ここでは1形式に限定しないが、それぞれの分野で一般的な形式でな

ければならない。実験系分野の場合は、序文 Introduction, 材料および方法 Materials and Methods, 結果 Results, 考察 Discussion の4項目からなる形式、もしくはこれに準ずる形式とする。

(1)

EXAMPLE

Thiamine deficiency induces massive apoptosis in the spinal cord of mice

Taro KASHII¹, Jiro CHIHAYA¹, and Kaori HAKOZAKI²

¹Department of Food and Health Sciences and ²Department of Environmental Science, International College of Arts and Sciences, Fukuoka Women's University, Higashi-ku, Fukuoka 813-8529, Japan

(Received April 1, 2016)

(Running title) Kashii et al. : Thiamine deficiency induces apoptosis

(和訳) チアミンの欠乏はマウス脊髄に多数のアポトーシスを誘導する

香椎太郎・千早次郎・箱崎 香

(1)

例

ラット大脳皮質と嗅覚系における 5-HT_{2A} 型受容体の局在
—免疫組織化学による検討—

¹吉塚花子・²竹下月子

¹福岡女子大学大学院人間環境科学研究科
²大阪大学大学院生命機能研究科

Localization of 5-HT_{2A} receptor in rat cerebral cortex and olfactory system revealed by immunohistochemistry

Hanako Yoshizuka and Tsukiko Takeshita

(平成 28 年 4 月 1 日受理)

(頁表題) 吉塚・竹下：大脳皮質・嗅覚系の 5-HT_{2A} 型受容体

¹ 〒813-8529 福岡県福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1
² 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-3

3. 原稿の書き方

3.1. 原稿のスタイル

原稿の第1頁には、次に示す3.2.の事項を記入し、第2頁より本文を書く。文献のあとに頁を改めて表、図および図の説明をこの順序に続ける。原稿の上部中央に () をつけた通し番号で頁を示す。

3.2. 原稿の第1頁記載事項

後記の例にしたがい、以下の事項をこの順序に記入する。

- ① 論文表題
- ② 著者名
- ③ 所属名 (学外の共同研究者についても同様、欧文の場合住所も記載)
- ④ 和文の場合、①の欧文訳と②のローマ字名
- ⑤ 頁表題 running title (著者姓：和文20文字以内、欧文6語以内)
- ⑥ 欧文の場合、①と②の和文訳

⑦ 脚注

- ④と⑤の間に受理年月日記載のためのスペースを取る。
- ⑤の著者姓は、3名以上の場合は最初の著者を代表とし、○○他あるいは○○ et al. とする。

3.3. 脚注

脚注は原則として以下のものに限る。

- ① 和文の場合住所 (和文または欧文で)
- ② 著者の原稿中の所属と現在の所属が異なる場合。
- ③ 略号
 - ①の主研究者の住所は無印、その他の場合および②, ③については*, +などの記号, あるいは1) のような番号で示す。

3.4. 文献の引用

文献の引用形式は各分野によってスタイルが異なる

ので、ここでは1形式に限定しないが、原則として名前年号方式か番号方式のいずれかとし、末尾に文献Referencesとしてまとめる(各頁毎に脚注にまとめる方式はとらない)。名前年号方式の場合、文献リスト中の著者の書き方は「姓、名のイニシャル」とする。

(文献リスト記載例)

(例1) 6) K. Noda, M. Aihara and O. Koizumi, *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **45**, 323 (1975).

(例2) Noda, K., Aihara, M. and Koizumi, O., *Chem. Lett.*, **1980**, 225.

3.5. 表

表にはその上部に表1, 表2, 欧文の場合にはTable 1, Table 2というように通し番号をつける。ついで本文を読まなくても大体理解できる程度の説明を記入する。

3.6. 図

図の説明は、本文を読まなくても大体理解できる程度のもとし、本図とは切り離して別の用紙に一まとめにして記述する。図も図1, 図2, 欧文の場合には

Fig. 1, Fig. 2のように通し番号をつける。また図面は約1/2(面積として1/4)に縮尺されるものとして、文字の大きさ、線の太さを考慮すること。

- 表, 図ともにその大体の挿入箇所を本文中に赤で指定する。
- 写真およびプレートは3.6.に準ずる。

3.7. 特殊活字の指定

以下の例にしたがい、朱書で行う。

| | |
|-----------|--------------|
| イタリック | <u>○○○○○</u> |
| スモールキャピタル | <u>○○○○○</u> |
| ゴシック | <u>○○○○○</u> |
| キャピタル | <u>○○○○○</u> |

C1とC1などの区別しにくい文字には「小文字のエル」とか「数字のイチ」と断わり書きを、またギリシャ文字には「アルファ」「オメガ」などの説明書きを朱書する。

3.8. 単位

CGS単位を用い、温度は摂氏または絶対温度を用いる。単位のあとには省略ピリオドは打たない。

